

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	D 建設・整備事業
事務事業名	橋りょう長寿命化修繕事業				シート番号	019-060
担当部署名	建設	局	道路	部	道路整備	課 評価責任者(課長名)
						金谷

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	7	地域防災力の向上と災害に強いまちづくりの推進	有
	2	事業開始年度	平成 20 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	道路法・河川法・港湾法・鉄道営業法			
	4	関連計画	堺市公共施設等総合管理計画、堺市国土強靱化地域計画、堺市橋梁長寿命化修繕計画、堺市橋梁耐震事業計画、堺市道路維持管理計画			
5	事業実施の経緯	本市で管理する749橋の橋りょうのうち、20年後には建設後50年以上となる橋りょうが現在の約3割から約9割へと急速に高齢化が進展する。そこで、本事業は全ての橋りょうを良好な状態で維持するとともに、ライフサイクルコストの縮減ならびに平準化を図ることを目的として、損傷が小さいうちに計画的に補修する予防保全の考えを取り入れた維持管理を行うものである。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	橋りょうを通行する人及び車並びに施設沿道の住民及びその財産			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	本事業は、市民の安全・安心を確保するために、本市で管理する全ての橋りょうについて、予防保全型の考えを取り入れた維持管理を計画的に進め、橋を良好な状態で維持するとともに、将来にわたるライフサイクルコストの縮減ならびに平準化を図ることを目的とする。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	本市で管理する全ての橋りょう749橋について、法的義務である5年に1回のサイクルで、定期的に点検を行い、早期に損傷を発見し損傷が進行する前に計画的に補修する「予防保全」の概念を取り入れた維持管理を進めることで、橋を良好な状態に保つ。 年間事業 定期点検 150橋程度 補修設計 20橋程度 補修工事 20橋程度 <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()			
10	直接実施以外の主な支出先	業務並びに工事の受注者、大阪市、南海電気鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社				

Ⅲ. 投入量

項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11 事業費 (a)	千円	2,139,068	1,246,124	2,206,600	1,325,179	2,697,500	1,734,368	1,971,028	
主な事業費内訳	委託料	千円	269,400	154,520	520,600	172,740	793,500	493,612	832,526
	工事請負費	千円	1,819,668	1,056,353	1,477,000	950,175	1,700,000	1,160,536	1,106,722
	負担金等	千円	50,000	35,251	209,000	202,264	204,000	80,220	31,780
		千円							
	国・府支出金	千円	543,770	400,770	727,045	470,965	752,782	622,604	590,811
財源内訳	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
	市債	千円	1,274,700	633,500	1,230,100	695,500	1,622,900	918,400	1,326,300
	その他(事業者負担金等)	千円	278,435	105,548	75,000	60,785	73,000	59,315	
一般財源	千円	42,163	106,306	174,455	97,929	248,818	134,049	53,917	
12 人件費 (b)	千円	41,000	41,000	41,000	41,000	48,600	48,600	49,200	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	2,180,068	1,287,124	2,247,600	1,366,179	2,746,100	1,782,968	2,020,228	

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名 橋りょう長寿命化修繕事業	シート番号 019-060
-----------------------	------------------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



[14] 令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15] または [16] に定量的な指標、または定性的な目標を記載

事業の活動実績や成果

令和元年度実績								
活動実績と成果	14	令和元年度は、139橋について定期点検を行い、22橋の補修工事を発注し、昨年度からの繰越も含めて23橋の補修工事を完了した。これらの活動の結果、橋を良好な状態に保つことができ、市民の安全・安心の確保につながった。また、次年度以降に補修工事を発注するために必要となる補修設計を21橋完了した。						
	15	指標名【活動指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		橋りょう補修工事発注数	橋	目標値	14	31	21	16
				実績値	14	29	22	
				達成率	100%	94%	105%	
	評価			良い	普通	良い		
	算出方法・設定根拠など		将来にわたるライフサイクルコストの縮減と平準化を図り策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき目標値を設定					
	16	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		補修完了橋りょう数 (補修が完了し安全性が向上した橋りょう数)	橋	目標値	32	67	81	101
				実績値	35	55	78	
				達成率	109%	82%	96%	
	評価			良い	普通	普通		
	算出方法・設定根拠など		目標値、実績値：補修完了の橋りょう数/補修が必要な橋りょう数(184橋) ※平成30年度からの目標値は社会資本総合整備計画(変更)で計画した184橋を基に年度毎に目標設定した補修完了数に基づき算定。					

事業の効率性

		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
17	①	補修完了橋梁数	橋	26	20	23	
	②	上記①にかかる年間経費	千円	1,097,353	991,175	1,209,136	
	③	単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	42,205,885	49,558,750	52,571,130	
	備考(算出についての説明等)		補修完了橋梁1橋あたりの事業費(工事請負費/補修完了橋梁数)				
18			区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	①						
	②	上記①にかかる年間経費	千円				
	③	単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位				
備考(算出についての説明等)							

業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
19	橋りょう補修工事発注数については、目標値を達成した。また、補修完了率についても概ね達成できている。年間概ね20橋の補修工事を完了しており、計画的に事業を遂行できているとともに、事業にかかるコストも平準化できている。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありませんでしたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	橋りょう長寿命化修繕事業	シート番号	019-060
-------	--------------	-------	---------

《V. 点検》

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。 ⇒ 確認

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 事業を廃止した場合、橋梁の老朽化が進行し、落橋やコンクリート片の剥落などの恐れが生じ、安全な道路交通ネットワークを確保することができなくなる。また、大規模な修繕や架け替えを行うために莫大な事業費と事務手続きが必要となるだけでなく、工事のために長期間の通行規制を行うこととなり、市民生活に多大な影響を及ぼす。
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 休止の場合の再開時期 事業を休止し老朽化対策を先送りした場合、大規模な修繕や架け替えが必要となり、事業費が大幅に増大するため。 <input type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由 橋梁の老朽化対策は必要最低限の維持管理であり、事業規模を縮小すると橋梁を良好な状態に保つことができず、市民を危険にさらすこととなることから、事業規模の縮小はできない。また、本事業は将来にわたる橋梁の維持管理に係る費用を最小限かつ平準化するための計画に基づいた事業であり、すでにコスト縮減が図られている。ただし、コロナ禍を鑑み当面2年間について事業規模を縮減する。
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善する必要がない <input type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由 公共工事を発注することで、社会経済活動の維持に貢献することができる。また、市民生活には直接影響することはない。
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は■、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は□) ① <input type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input checked="" type="checkbox"/> 他部署との適切な連携・役割分担 関係部署名 (土木部地域整備事務所) 関連事業名 (橋りょう耐震強化事業、道路の維持管理事業) ④ <input checked="" type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input checked="" type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他()	理由・説明 ③橋りょう長寿命化修繕事業と橋りょう耐震強化事業を併せて発注することで経費の低減を図っている。また、維持管理業務を担当する各地域整備事務所と情報共有しながら、計画的かつ効率的に業務を実施している。 ④「大阪府道路メンテナンス会議」に参画しており、国や大阪府内の自治体と情報共有を行うなどの連携を図っている。 ⑤国・都道府県・他政令市も橋りょうの長寿命化修繕計画を策定し、事業を進めている。
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input checked="" type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降	
		所見 財政状況が改善するまで年度当りの事業費を縮減するが、対象となる長寿命化が必要な橋りょう数に変更がないため公金投入の方向性は現状維持としている。 今後も引き続き長寿命化修繕計画に基づき事業を進め、道路交通ネットワーク機能を良好な状態で維持するとともに、国庫補助金や起債制度を有効活用し、市の財政負担の軽減に努める。		